

# 別府市美術館と

## 名作の周辺 (一)

江藤 明

### 一、佐藤慶太郎と別府市美術館

東京都美術館が、北九州の炭坑王といわれた佐藤慶太郎の寄付金一〇〇万円によって、大正一五年に創立されたことは、その驚異的な寄贈行為とともに広く知られているところである。しかし、別府市美術館も、この佐藤慶太郎の寄付金を基金として開館に至ったことはあまり知られていない。

生来の病弱を克服、厳しい苦学の結果一代で財を成した慶太郎は、広範囲にわたって社会施設の寄贈や育英事業に貢献した。別府の野口病院も、バセドウ氏病の権威であった初代院長野口雄三郎氏のために設立したものである。野口氏との関係もあって、晩年は同病院の南側に

別荘を建て、昭和一五年一月、七三歳の生涯を別府の地で閉じることになる。遺言として、残された有価証券のすべてを処理し公共事業に寄付するよう遺族に伝え、別府にも美術館の設立を望んでいたので遺族より、当時の金額で一〇万円が別府市へ寄付された。現在のおよそ三億円に相当するであろうか。しかし、翌年は太平洋戦争への突入、昭和二〇年の敗戦、佐藤基金はそのまま戦後に持ち越された。

昭和二四年、別府市がこの基金の目的を実現すべく「美術品の購入」を決定したことは、極めて先見的英断であったと思われる。脇鉄一市長を中心に県出身の福田平八郎画伯に日本画を、佐藤敬画伯に洋画の購入を依頼し二〇点の作品が収集された。

戦後間もない復興期、趣旨に賛同した多くの画家や彫刻家の協力を得て、容易に秀作が入手できたことは幸運であった。安井曾太郎、梅原龍三郎、小出権重、林武、小磯良平、村上華岳、福田平八郎、前田青邨、堂本印象など別府市美術館収蔵品の根幹となる作家の名作がそれである。昭和二五年十月、別府市公民館の三階に、九州

では初の公立美術館として開館した。

二、朝倉文夫、岡田三郎助の名作「佐藤慶太郎像」

近代日本を代表する数多くの収蔵品のなかで、特に目立つブロンズの肖像彫刻と油彩による肖像画が別府市美術館に展示されている。

彫像の方は大分県出身の彫刻家朝倉文夫氏による「佐藤慶太郎像」明治、大正、昭和にかけて日本彫刻界に君臨し、肖像彫刻では他の追随を許さなかった朝倉文夫の秀作である。これは、東京都美術館の開館にあたり、美



朝倉文夫「佐藤慶太郎像」



岡田三郎助「佐藤慶太郎像」

術館設立寄贈者である佐藤慶太郎へ、多くの美術家の連名で感謝をこめて贈られた記念の肖像彫刻である。時を経て、昭和二五年別府市美術館の開館に寄せて、遺族から寄託された。後に購入することになったが、同じ彫刻が東京美術館にも保存されている。

肖像画の方は、東京美術学校西洋画科の教授であった岡田三郎助の制作によるものである。

昭和一〇年東京都美術館の開館一〇周年記念に際して、当時の東京府から佐藤慶太郎へ贈られた作品である。呼吸や体温まで感じられるような写実表現に徹した肖像画であり、後年安井曾太郎が別府市美術館を訪れ激賞したといわれる名作である。この作品も遺族から寄託され後に購入している。恐らく贈呈の本家である東京都美術館が、何よりも収蔵したいと思われる記念像ではないだろうか。

余談であるが、この肖像が贈られた翌々年の昭和一二一年、岡田三郎助は第一回の文化勲章を受章、三年後の昭和一五年、佐藤慶太郎は他界した。

### 三、梅原龍三郎の「小姐」と女優李香蘭

別府市美術館の収藏品の中に、福田平八郎画伯を經由して収蔵された梅原龍三郎の作品「小姐」がある。この作品が購入される折、モデルは当時話題となった国際的な女優「李香蘭」であると伝えられたようであるが、作品の裏面には、題名「小姐」(シヤオジュ)と昭和一七年一〇月、北京飯店五〇七室にて、とあり特にモデルについての記入はな



梅原龍三郎「小姐」(シヤオジュ)

い。また美術館収藏品台帳にも「李香蘭を描いたといわれる」と記されているだけである。

昨年、別府市美術館の作品を新聞紙面で広く紹介する機会を得て、この梅原龍三郎と「小姐」を解説するにあたり、是非ともモデルの確認が必要と考えられた。しかし関係者のほとんどが故人となっている現在、残されている方法は、直接本人である参議院議員大鷹淑子(山口淑子)女史に問合わせることであった。さっそく作品写

## 別府における石器人

安部 和也

頁を参議院会館宛に送付、返信は極めて丁寧な大鷹議員からの電話であった。「小姐」はまぢがいなく李香蘭であること、梅原龍三郎画伯のモデルになった様子は、新潮社から出している「李香蘭私の半生」にくわしくかいてあること、その時描かれた作品のうち一枚は本人が所蔵しているが、もう一枚の方はどうなっているか全くわからなかった。どうして別府市美術館に収蔵されたのだろうか。等々、かつての「李香蘭」大鷹淑子女史の澁刺とした声を耳にすることができた。翌日速達便で「李香蘭私の半生」が届けられた。

梅原龍三郎はこの時期毎年中国を訪れ、「北京時代」といわれる多くの秀作を残しているが、紙に油彩で描いたり、日本画材を用いた独特の画報で制作しているが、「小姐」にもその特色がよく出ている。昭和十七年、女優李香蘭三二歳、日本では上映されなかった「黄河」の撮影が終った秋、北京飯店でモデルとなっている。東京国立近代美術館の「北京秋天」、長岡近代美術館の「紫禁城」などが同じこの秋に描かれた。

人類の祖先がこの地球上に誕生したのは、三百万年から四百万年前といわれており、猿人・原人・旧人の過程を経て新人と言われる現代人に進化したのである。日本最古の人類の痕跡が宮城県高森遺跡で発見されたと、五月十三日付けの新聞に報道された。それは『出土品は石核や石片を加工して刃を付けた石器で、発見された地層の火山灰堆積順序や、年代測定などをした結果、北京原人とはほぼ同じ約五十万年前のものである』と

大分県下では、丹生・早水台の両遺跡が、十数万年前的のものと言われていたが、最近になって考古学者の間では、丹生遺跡の出土品は石器に相違ないが、出土した地層に問題があり、又、早水台遺跡から出土した石器は、石と石とが自然現象によってぶっつきあって出来た石器に似た物で、人間が加工した物ではないとの説が発表